

知床世界遺産地域におけるエゾシカ対策のR8・R9年度の方針（案）

大項目	実施地域	項目	備考	第4期計画期間												第5期計画期間(仮)													
				2026(R8)年度												2027(R9)年度													
				2026(R8)シカ年度												2027(R9)シカ年度													
4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3						
仕切柵改良	知床岬	工程	春季より施工開始、遅くとも10月中旬の竣工を目指す予定。	◎	◎	◎	◎	◎	◎																				
捕獲		厳冬期巻狩 (2-3月)	【メリット】 ・過去に大量捕獲の実績あり。 ・ヒグマとの遭遇の危険が少ない。  【デメリット】 ・ヘリコプター使用のため <b>高額</b> 。平年並みの予算で実施する場合は、半島内他地域の捕獲を休止する等の調整が必要(非積雪期の捕獲の優先度についても検討が必要)。 ・現地環境が過酷なため、捕獲従事者へかかる負担が大きい。																										
		簡易囲いわな	【メリット】 ・既存仕切柵マンゲートを使用する為、捕獲作業員の人力で設置可能。移設も容易。 ・引き続き実地試験による実用性の検証と知見の収集が必要。  【デメリット】 ・手法が確立されていない(実績が少ない)。 ・低密度化を維持するための手法であり、密度低下が求められる現時点の優先度はやや低め。	△	△																								
		待ち伏せ式狙撃	【メリット】 ・スレ個体の発生を最小限とした確実な捕獲を行うことができる。 ・誘引餌やシカ笛等の活用と組み合わせも可能。 ・捕獲圧をかけることで、グリーンシーズンのシカの出没が減り、植生被害が軽減する可能性もある。	○	○																								
	幌別-岩尾別	簡易囲いわな	同上											△	△	△													
		待ち伏せ式狙撃												△	△	△									○	○	○		
		大型仕切柵による 囲いわな	【メリット】 ・長期にわたる捕獲実績あり ・公道からアクセスが可能であり、比較的安価に実施できる。												◎	◎	◎									○	○	○	
		忍び猟	【メリット】 ・捕獲する個体の雌雄などを選択できる。  【デメリット】 ・捕獲従事者の技量が求められる。													△	△	△									○	○	○
		くくりわな猟	【メリット】 ・長期にわたる捕獲実績あり。 ・毎年、一定の成果を上げている。  【デメリット】 ・見回りを高頻度で行う必要がある。														△	△	△									○	○
	ルサ-相泊	くくりわな猟	同上													◎	◎	◎									○	○	○
	エゾシカ モニタリング	知床岬	自動撮影カメラ	【メリット】 ・航空カウントと比べ少ない予算でモニタリングが実施できる可能性がある ・植生がシカの採食圧を受けるグリーンシーズンのモニタリングが可能  【デメリット】 ・3か月に一度、電池交換等の見回りが必要。 ・現時点でデータの蓄積が少ない。 ・現在は、知床岬地区のみにカメラが設置されている。	◎			◎		◎							○		○			○							
遺産地域全域		航空カウント	【メリット】 ・2013年より継続してモニタリングを行ってきた実績と蓄積データ。 ・隣接地域を含む半島全域のモニタリングが可能。  【デメリット】 ・費用が高額。燃料代や人件費の高騰で今後も上昇の見込み。 ・見通しが確保できないため、植生がシカの採食圧を受けるグリーンシーズンのモニタリングが困難																							○			
その他				【捕獲】 ・厳冬期の巻狩捕獲の実施を目指す。 ・発見頭数のレベルに合わせた捕獲プランの確立を目指す。 ・将来的な低密度化を見据え、大量捕獲から低密度管理へシフトする際の捕獲手法や実施時期を明確にする。  【モニタリング】 ・自動撮影カメラによる密度推定を継続。航空カウント調査の結果と合わせて、シカの生息状況の評価の仕方を整理し、今後のモニタリング手法の確立を目指す。 ・第5期エゾシカ管理計画にむけて、今後のエゾシカモニタリングの方針を決定。												【捕獲】 ・厳冬期巻狩についてはR8年度の結果を踏まえ、実施方法を検討。 ・引き続き密度が高めの状態が続くことを想定し、巻狩の実施を目指す。 ・航空カウントによるモニタリングの結果をふまえつつ、捕獲を低コストで実施可能な4～5月に実施時期を移行することについても検討。  【モニタリング】 ・自動撮影カメラ等によるモニタリングを継続(厳冬期巻狩の効果検証)。													

R8シカ年度の個体数調整について、仮に環境省予算額が例年並みとなった場合には、選択肢として以下が考えられる。

- A案：知床岬地区厳冬期巻狩＋エゾシカB地区(幌別-岩尾別・ルサ-相泊)冬季捕獲
- B案：知床岬地区厳冬期巻狩＋知床岬春季捕獲（待ち伏せ式狙撃＋簡易囲いわな）

※R9年度計画については未定のためすべて優先度”中”で仮入れ

◎＝優先度”高”(例年並みの予算の場合には優先して実施)  
○＝優先度”中”(例年より多い予算となった場合に◎にプラスで実施)  
△＝優先度”低”(要望通りの予算となった場合に◎と○と共に実施)